

子曰く、事を先にして得るを後にするは、徳を崇くするに非ずや。其の悪を攻めて、人の悪を攻むること無きは、慝を修むるに非ずや。一朝の忿に、其の身を忘れて、以て其の親に及ぼすは、惑いに非ずやと。

【大体の意味内容】先生はおっしゃった。「利益を得るよりも先に、行うべきことを真摯に実行

し、努め励むことは、徳を崇くすることにならないだろうか（いや、なる）。自分の悪を攻めて改めようとし、他人の悪を攻めないのは、自分の中の隠れた悪を修める方法ではあるまいか。

一時の怒りに我を忘れて、禍を自分の親にまで及ぼしてしまうのが、「惑い」ではないだろうか。

金もつけを目的としているように見えるビジネスの世界でも、ほんとうに成功している人はこの孔子の教えを模範としています。人として誇れる使命を自覚し果たすことなく、やたらともうけることばかり考えたり、他人をだましたり陥れてでも自分ばかりいい思いをしようとする者は、必ず悲惨な末路をたどる。このことは、ビジネスの世界だけでなく、スポーツでも芸術でも学問研究や受験でも、どんな場合にもあてはまります。スピードスケート、平昌オリンピック金メダリストの小平奈緒選手が、自分に課している理念が「求道者、情熱、真摯」だそうです。実際彼女は、自分がオリンピック記録を出した後のレースが始まる時、客席の日本人応援団が大騒ぎするのを、静まるようにと制しました。これから自分を破るかもしれないライバルが出るレース、それを邪魔せず、最大限力を発揮してもらおうことを優先しました。これが「崇徳（とく）たかし」です。だれもがその努力にふさわしい戦いをすべきで、メダルはその結果誰かの手に渡るものにすぎない。尊重すべきは過程であり、「戦い」という熱い人間関係を結ぶ「仲間」全員の完全燃焼である。「金メダルは名誉なことだけれいが、メダルを通してどのような人生を生きていくかが大事」とも小平選手は言います。蓋し名言です。テストや受験でもそうです。結果よりも、どのような努力をしてきたか、どのように努力し続けるかが最も重要なのです。

そのことが、その人のその後の人生を直接創っていくからです。「結果を出すためには手段を選ばない」と卑怯な行動までとってしまっっては、卑怯な人生を歩み続け腐り続けるしかありません。最強の敵こそ、最良の友として、尊重する、そんな人生で輝いてください。